

上田城 長野県上田市二の丸 6263-イ

上田城は天正11年(1583)、真田昌幸によって築かれた平城で、上田盆地のほぼ中央に位置しています。堀と土塁で囲まれ、虎口(出入口)に石垣を使った簡素な城ですが、第一次、第二次上田合戦で徳川の大軍を撃退し、天下にその名を轟かせました。数ある城郭のなかでも、2度もの実戦経験をもち、輝かしい戦果をあげた城は、全国でも他に例がありません。しかし、上田城は関ヶ原の合戦後に破却され、藩主であった真田信之公も松代へ移封となりました。その後、小諸から入封した仙石氏により城は再興され、近世後半は松平氏の居城。



西櫓 真田石

西櫓は寛永3~5年(1626~1628)にかけて仙石氏によって建てられた上田城で江戸時代から現存している唯一の建物です。南櫓・北櫓とともに長野県宝に指定されています。東虎口櫓門右手の石垣にある高さ約2.5m・幅約3mの大石。真田信之(信幸)が松代城移封にあたり父・真田昌幸の形見として持っていかうとしたところ、微動だにできなかったという言い伝えが残っています。

